



どうする若者、どうする私たち

～若者との対話から、未来を考える～

今回で3年目となる4つの都県生協連共催による学習会。昨年度は「平和を考える」をテーマに憲法学習会を開催しました。今年は、様々な社会活動や意見の発信などに積極的に活動する3名の方にご登壇いただき、若者たちの価値観や視点と彼らが目指すこれからの社会について、生協の活動でも課題となっている、多様な人々や団体などとの連携（ネットワーク）の在り方や活動の持続、継承などについて、実践を通じたリアルな声をお聴きました。

日時：2023年11月11日（土） 14：00～16：00

方法：オンライン（Zoom / YouTube ライブ配信/アーカイブ配信）

参加人数：104名（当日会場24名、オンライン15名、アーカイブ希望65名）

【パネラー】 能條 桃子さん NO YOUTH NO JAPAN 代表、FIFTYS PROJECT 代表
高橋 悠太さん カクワカ広島共同代表、KNOW NUKES TOKYO 元共同代表
都築 則彦さん NPO 法人 ORIGAMI 理事長、EARTH LIGHT PROJECT 代表

【ファシリテーター】 二村 睦子さん 日本生活協同組合連合会 常務理事（運営・組織担当）

【開催挨拶】 田中 知巳専務理事（神奈川県生協連）

【司 会】 吉村 真由美（東京都生協連）

【共 催】 東京都生協連、埼玉県生協連、神奈川県生協連、
千葉県生協連

14：00 開会宣言・開会挨拶
14：10 パネラー、各団体紹介
15：20 質疑応答・フリップディスカッション
16：10 まとめ
16：30 閉会



開会挨拶：田中知巳専務理事
（神奈川県生協連）



司会：吉村真由美さん
（東京都生協連）



ファシリテーター：二村睦子さん
（日本生協連）



パネラーの皆さま
能條桃子さん 高橋悠太さん 都築則彦さん

パネラー

能條桃子さん

20代の投票率が80%を超えるデンマークに2019年に留学したことをきっかけに、日本のU30世代の政治参加を促進する「NO YOUTH NO JAPAN」を設立し、代表理事を務める。Instagram などを利用したSNSメディアの運営や選挙の投票率向上に取り組む。

高橋悠太さん

中高時代、核廃絶署名活動などに参加し、核問題に関わり始める。2017年にノーベル平和賞を受賞した「ICAN」キャンペナーとして、核兵器禁止条約を推進。2019年、核政策について尋ねる国会議員との面会を行う「カクワカ広島」を立ち上げ、現共同代表。

都築則彦さん

2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けた日本最大の学生団体「おりがみ」を設立。400名以上の学生メンバーと共に、聖火リレー期間に炎を成層圏で点灯・映像配信する「EARTHLIGHT PROJECT」をはじめ数々のプログラムをプロデュース。

能條桃子さん

●政治に関心のない人へのアタック方法は？

社会課題への問題意識が高い人へのアプローチは可能。そこで政治の問題につなげることが活動の一つ。無理に連れてくることはできないが、人によってタイミングはそれぞれ。今はわからなくとも、将来気づくこともあるので言い続けること、場を持ち続けることが大切。

●活動において大切にしていること

「wakuwaku」。面倒なことも含めて活動なので、自主的に楽しくやりたい。我々が楽しくないと誰も参加してこない。

●社会へ問題への向き合い方の特徴

フレキシブルに動くのが好き。立てた旗に人が集まる。多くの旗を立てた方が多くの人たちが集まる。プロジェクト別にその時動ける人たちで活動する方が動きやすい。仕事にしていく必要がある。社会運動はお金にならない。活動の延長でそれが仕事になり生計を立てられるようになればいいと思う。



都築則彦さん

●面白そうと思える活動とは？

ボランティアが活躍しやすい場。ボランティアと一緒に考えて作っていく。社会テーマを入れていくことも意識している。若者を尊重するカルチャーが重要。地域の大人が我慢しきれず口を出してしまう。これを繰り返していくと若者は限界を感じて辞めていく。わからないことを前提で話していくことが大切。

●活動において大切にしていること

支援者として若者を見ると、日本の文化なのか、本音を言えない環境を感じる。そんな若者に対してとても気を遣う。言葉の裏側にある本音を引き出すことを悩みながら活動している。

●社会へ問題への向き合い方の特徴

楽しむことに尽きる。自分自身が社会とのつながりを見出すことに楽しみを見出すことは、ずっと変わらないことだと思っている。どの世代であっても大切なことだと思う。活動を「楽しい」ということに対して、表に出すことをタブー視されていた。楽しくないと活動は続かない。

高橋悠太さん

●国会議員との「水面下の」交渉

核兵器禁止条約の次回第3回締約会議にオブザーバー参加した方がいいという議員をつくることを重点にしている。その中でオブザーバー参加に反対していない議員に個別にヒアリングをして、賛同を表明してくれるための条件や今回は賛同してくれない場合でも今後どうしたらいいのかを聞いている。

●活動において大切にしていること

「参加者」から「主催者」への誘導。人前で話す際、人がうなずくような格言は言わず、みんな考えてもらえるような発信をしている。分かりやすさを追求すると主たる物事しか伝わらず、見えない情報もある。多くの情報を提示できるように心がけている。

●社会へ問題への向き合い方の特徴

核兵器は前の世代が生み出し、次の世代が対応しきれなかったツケが今ある。これまで抑圧されてきた人が声をあげ、当事者でない人も一緒に声を上げていくことに共鳴する人が増えている。イベントをやる際は参加した人数よりも、「深さ」にこだわりを持っている。より広いメッセージの打ち出し方が必要。



参加者アンケートから

- ・今回は、今までの学習会の中で一番刺激的で印象深く非常に良かった。20代30代の考えこそが生協に必要だと思った。
- ・若い世代も色々考えていること、本来は私たち大人世代がもっとやらなければいけないことを突きつけてくれたと思いました。

